

今日のわだい

- 【1面】第28回医療研究集会を秋田で開催 50年ぶり?ドクターズウォーク
- 【2面】第28回医療研究集会・分科会報告
- 【3面】秋の厚生労働省交渉



全 国 労 働 組 合 連 合 会  
 〒110-0013 東京都台東区入谷 1-9-5  
 TEL 03-3874-3591  
 FAX 03-3874-3593  
 発行日 毎月20日  
 定 価 30円

# 住民との懇談を大事に医療の充実へ

## 第28回医療研究集会 in 秋田

11月18日～20日、全厚労は第28回医療研究集会を秋田県仙北市のわらび座にて開催。13県から145名が参加し、「いのち輝く地域・職場、自治と協力の絆を」をテーマに活発な意見交流を行いました。

### 住民と懇談し 一緒に運動しよう

渡辺一信執行委員長は「患者の立場に立った医療に努め、住民との懇談も大事にし、国の制度充実のため住民と一緒に運動しよう」とあいさつ。恒例のリラックス体操を荒木運営委員が行い、旅の疲れを癒す指圧と軽快なトークで参加者一同リフレッシュしました。続けて鈴木土身事務局長から基調報告。もともと医療崩壊が深刻だった東北地方に起きた東日本大震災を口実に医

療・農業・漁業のさらなる集約を狙う国の政策に対して国民・地域住民の運動が広がり、旺盛に取り組まれている現状が報告されました。

### 本気でやれば 何でも楽しい!

群馬・大戸診療所の今野義

雄さんから報告された住民立の診療所設置の取り組みでは「設立するまでもこれからの問題や苦勞が絶えないが、本気で取り組めば乗り越えられるし本気でやれば何でも楽しく、たくさんの方が助けてくれる」と協同の運動の楽しさが語られました。日本福祉大

### 5つの分科会での 交流を通じて

2日目からは5つの分科会に分かれ活発な討論と全国の活動を交流しました。各分科会ともに夜の交流会では出し物を準備し、寸劇や歌などパフォーマンスを披露し大きく盛り上がりました。



今回も旅の疲れをリラックス体操でリフレッシュ!

### 医療研究集会に参加して

#### ■基調報告のウソ

医療研の目的の再確認ができました。28回続けてきた意味「つながり」の大切さと社会情勢も含め広くアンテナをもって毎日を積み重ねることの大切さを感じました (茨城)

#### ■厚生連医療の現状と問題を

わかりやすくまとめたいてだいて良かった。提案型の組合になれるようレベルアップを図りたい (長野)

「住民にとっての病院」おらほの病院」確かに!と思えました。地域に根差した病院とはいふけれど住民を迎えるのイベントも形式的になりつつあり、経営悪化と言っては送迎バスがなく

#### ■特別講演のウソ

今野先生の講演を聞き医療は住民のもの、患者さん、利用者さんの要望を聞きいれながら成り立っているんだということが理解できた。とても理想的だと感じた「本気ですれば大抵のことができる。本気ですれば何でも面白い。本気でしてると誰かが助けてくれる」ということ、この言葉



開催地・秋田の皆さんのおもてなしに感謝

が心に残った (茨城) 諦めからは何も始まらない事、頑張りには人の心を動かすことを再認識させて頂きました。諦めず何とかして今をつくった事に頭がさざります。専門が独り歩きしているチームワークにならなくなっている...と言うのが印象的でした。本当の協

同を考えていきたい (秋田) 鍋谷先生の講演を聞き医療同源でもとにがんばるという話をして下さった。人間は自然の中で生きていく、自然の中で物質代謝している、それで人間同士精神的代謝をしている、人間は自然をつくりかえていると言っていました (茨城)

他職種の色んな状況を聞くことが出来て良かった。看護職は思っていた以上にすごい働き方で離職者が多いのも当然かと思ったが、少しでも状況を変えるのはやはり現場の声を届ける事だと思ふ。やはり組合の力はすごいと思うし活性化させなくてはと感じた (秋田)

分科会in 茨城 今回初めて研修会に参加し、日頃職場や院内での悩みや不満を話す事が出来、先生方にアドバイスをしていただき、元気・勇気が出てきました。また明日から元気に仕事することが出来ます (茨城)

他県の皆さんの話や栃木・広島の問題等、話が聞けてよかったです。自分達のいま置かれている状況も大変だと思っていました。皆それぞれ厳しい状況を抱えて頑張っている事がわかり、自分たちも負けずに頑張ろうとあらためて思いました。演劇を通して初対面の方と一緒に一つの物を作り上げて得た達成感がたまらなく良かったです。また第4分科会に参加したいと思っています (福島)



11月20日「ストップ・ザ・医療崩壊!!」「震災復興・医療再生」をテーマにドクターズウォークが開催され2500名(内医師800名)が参加。全厚労からは佐久病院の色平医師・北澤医師ら4県26名が参加し、銀座をパレードしました。医師がパレードを行うのは50年ぶりのことでマスコミ各社も報道し、注目を集めました。

### 第1分科会 住民とついでに運動する

第1分科会の参加者は、6県連18名と助言者の群馬県大戸診療所 今野義雄さん、日本福祉大学教授で隔月刊「社会保障」編集長 鍋谷州春さん、合わせて20名でした。

今回の医療研のサブテーマが「いのち輝く地域・職場、自治と協同の絆を」ということもあり、第1分科会では、『住民と医療労働者が一緒に運動する意義、住民自治のあるべき姿』にスポットをあて話し合いました。

全国いろいろな地域で地域医療を守る運動が行われています。

その運動には、組合員（医療労働者）も住民と一緒に参加しています。

そこで、実際に組合員（医

### 第2分科会 地域にやる仕事

第2分科会では、地域に出るといふことをテーマに話し合われました。その中で、地域のことを知らなければ、医療も健康も語ることはできない」という考えかたに、とても考えさせられました。

生活の場に行かないと、「その人がどう暮らしたいのか」「その人らしい生活とはどんな生活なのか」は見えてこないと思います。その中で、訪ねたスタッフは、生活場面を見る中で、「そこで生活する」といふことはどんなこと

か」を再確認し、何をするべきかを学んだり、自分たちがしていることの意義を改めて考えること・確認することが大事であると、再認識させられました。

そして、訪問リハビリのなしを聞きながら、私は精神科で勤務しているのですが、利用者への理解をするという視点においてはなんら変わらず、ただその人の障害が何であるのかという違いだけだということも、改めて確認できました。そして、ここにはチーム

としての連携も必要であるということも。そこには、その人に関わる人・チーム・関連機関との連携という「つながり」が、とても大事になりま

す。それは、相談するということも「つながり」になりま

す。地域でということのポイントには「つながり」これが大切

です。このつながりは「和」になります。じつはこ

### 第3分科会 働く者どうしのわかりあい

医療や福祉は多くの職種の人が混ざって仕事をして

います。この分科会では、他職種の人とわかりあうことの意義や方法について、8県28名の参加者により話し合いが

進められました。

まず、日本医労連顧問・田中千恵子さんを迎え、「私達の生きている社会について」「東日本大震災で見たこと」「医療現場で実際起こって



名札を手に挨拶から。コミュニケーションを実践

れが一番大切なことだと、再認識させられる分科会でした。

今回の分科会での話を聞いて、私は精神科デイケアでの勤務しているのですが、当病

院の訪問チームとのつながりをより強化して、精神障害のある方々がより地域で生活できる

よう、働きかけたいと思います。

三厚労 松井 哲也

### 第4分科会 病院を地域にひろく

第4分科会

は8県23名の参加者がありました。

①三重・鈴鹿の多彩な年間行事、②栃木の統廃合問題での住民の会の立ち上げ、③広島府中総合病院の市民病院との統廃合問題の3つの報告があり、それらに関連して各

県の取り組みが補強報告されました。

鈴鹿では、春と秋の花フェスタ、運動会、タコあげ大会など患者・地域住民が参加して自分たちも楽しみながら精神科単科の病院を地域にひろく実践に新鮮な感動が集まりました。

栃木と広島・府中の統廃合問題は、これからこの県でも他人事ではない危機を

はらんだものとして深刻にとらえ、住民とのつながりの必要



寸劇と創作歌の練習で作り上げる喜びを体感

性を痛感させられました。

二日目の3時からはず劇と創作歌の練習を行いました。

短時間で一体感を実感でき、出会いの場となっているこの分科会の特徴を出す事ができました。

神厚労 岡部 義秀

### 第5分科会 いのちを育む食と環境

本分科会では、まず始めに、開催地の秋田で長年環境問題に取り組んできた「馬場目川上流にブナを植える会」の活動を学習しました。

次世代にきれいな水環境を残したいとの思いで、八郎潟に注ぎ込む馬場目川の源流部にブナ植林を開始したのが1992年。そこに参加した人々が東北の各地にブナ植樹運動を展開したとの話に感動し、さらに美しいブナの姿にまた感動でした。

先導的に病院給食食材へ地元野菜の導入をしている伊勢原協同病院の取り組みの紹介では、毎週、野菜の納入確認会議を地元JAの野菜部会の農家グループと病院で開催しており、農家との親密な関係作りの大切さが確認させられました。

この取り組みに触発され、

長厚労 白田 誠

なお、茨城厚生連労組中央執行委員の中村敦さんが持参された新米を開場で炊き、そこに持参の水戸そば納豆をのせておいしく頂きました。

次回もこうした楽しみを期待したいとの声がたくさんありました。



様々な薬品で作られたオレンジジュースにビックリ

# 地域医療再生への最大の支援と、働き続けられる労働条件への法規制を

## 11年秋厚生労働省交渉

11月30日、全厚労は秋闘での厚生労働省交渉を全国からの14県22名の参加者で行いました。要請の項目は大きく分け、①へき地医療への助成、②へき地の医師確保、③看護師確保と労働条件改善、④労基法遵守と法規制、⑤療養病床問題、⑥介護処遇改善、⑦福島の地域医療再生の7点にわたって、約2時間余行いました。

### ①へき地医療支援

医政局の担当者は、「へき地中核拠点病院の指定を受けてもらえれば、運営補助金を助成してもらいうことができれば、県と協議して指定を受けてほしい。全体では13億円の予算を確保している。また遠隔医療への補助も行っている。今年度15県に設けているへき地医療支援機構には、へき地勤務経験のある医者を担当者として配置し、へき地勤務のキャリアパス計画への補助、ドクタープールへの登録料を出している」と回答しました。

### ②医師確保問題

医政局の担当者は、「へき地中核拠点病院の指定を受けてもらえれば、運営補助金を助成してもらいうことができれば、県と協議して指定を受けてほしい。全体では13億円の予算を確保している。また遠隔医療への補助も行っている。今年度15県に設けているへき地医療支援機構には、へき地勤務経験のある医者を担当者として配置し、へき地勤務のキャリアパス計画への補助、ドクタープールへの登録料を出している」と回答しました。

### ③看護師離職防止(続)

労基局政策課や監督課、医政局看護課が対応しましたが、「第7次需給計画でも看護師は増えていくと見通している。看護師員確保法・基本指針に基づき、複数月8回以内の夜勤体制を中心に、労働環境整備にあたりたい」「院内保育所への助成については、増額したいが、平成24年度予算で義務的経費を除いて一律10%削減を求められていること、医療提供体制推

### ③看護師確保と労働条件改善

保険局・老健局の担当官が対応

進助成金という名目で包括化されているので、県への要請を行って欲しい。時間外労働削減については、「2020年までに週60時間以上の割合を50%削減させるなどの目標が掲げられている」などと答えました。

交際団からは、「厚労省の見通しは甘い。現場の労働環境が悪ければ離職は止まらない。法律で規制されなければ、現場はぎりぎりまで働かざるを得ない」、また福島県代表は「5局長通知による企画委員会は、「震災対策を優先して遅れても構わない」と指導されているようだが、逆に看護師の労働環境改善に向けて動いてもらわなければ、さらに医療労働者の流出が進む。実行を急いで欲しい」と強く要請しました。

### ⑤療養病床問題

対応した保険局は、「介護療養病床の廃止方針を『凍結』ではなく、きつぱりと中止して欲しい」という各方面からの要請はある」としながらも、「いまはなんとも言いえない。長期療養病床については、28万床が必要との認識になっている」「平成25年度からの第二期医療費適正化計画策定に向けて明確になっていく。また介護処遇改善交付金の今後については、社審で審議されているところ、実態調査では、交付金が主に一時金に充てられている状況であり、介

### ⑥介護処遇改善

護報酬加算が妥当だと方向性が高い」と答えました。交際団は、「交付金を継続し、対象を拡充してもらうことがベストだが、介護報酬であってもそれがちゃんと介護労働者の給与アップに充てられることを担保してもらうことが必要。保険料・利用料アップになれば、ますます使えない介護保険になる。労働者の賃金・労働条件は、労使で決めるものとされているが、国としてせめてこれだけの割合を50%削減させるなどしてほしい、でない報酬もきちんと給与改善には廻らない」などと応酬しました。

### ⑦福島地域医療再生

地域医療再生交付金の進捗状況と、第3次補正予算で被災3県に對して720億円の基金を積み増したことが報告されるとともに「被災地の医療支援対策については、医療関係団体とも『被災者支援連絡協議会』を構成して、被災3県のニーズにあった対策をすすめている。福島でも11月までにのべ37名の医師を派遣、南相馬市にも2名の担当者を派遣し、地域ニーズの情報収集を行っている」と答えました。

しかし交際団からは、「福島の場合は医療提供体制が足りない、医師は半分以下になり、高齢者も増え要介護・慢性疾患状態が増えている」「震災・原発事故は特別の事態なのだから、特別の体制を取って対応するべき」だとして、もともと人員や予算を充てて欲しいと要請しましたが、「そうしたいのはやまやまだが、こちらも通常業務もこなしながらなんとかやっている」と苦しい胸の内も晒されました。



地域医療の実態を訴える吉田・富永さん  
その右に静岡・榎田さん

### 震災復興・地域医療再生へもつと支援を

厚生労働省交渉で印象に残ったのは、やはり東日本大震災・福島原発事故についてです。依然として震災・原発事故の影響を受けている地域の現状について、今後の復興・再建に対して支援の必要性を強く認識することができました。

そのなかで復興・再建に際しては厚生労働省でも認識しており、できる限り柔軟に対応したいと返答がありました。しかしそのやり取りのなかでは、実際の現場との温度差を感じるところもありました。今後も沢山の不安を抱えるなか業務に奮闘している組合員・地域の住民のためにも強く訴え続け、いち早く地域医療を再生できるように働きかけることが重要であると思いました。

また今回はじめて厚労省交渉に参加させていただき、勝手にあまりわからないなか、私も薬剤師の立場から「チーム医療の評価」について現状を直接訴えることができました。薬剤師については、薬物療法への参画・医療安全と質の向上等の様々な業務の取り組みが期待されるなか、十分な薬剤師数を確保できていない現状があるため、今後も人員確保等の点から訴えかけていければと思います。このような現場の声を直接訴えることができる厚労省交渉は重要であると思います。今後も機会があれば交渉に参加し、現状の問題点を訴えたいと強く感じました。

を訴えたいと強く感じました。  
北厚労 小林 龍

現状を良くしたい  
気持ちは一緒、頑張ろう

全国の厚生連病院に働く皆様こんにちは。静岡厚生病院より参加しました榎田です。静岡労委員長、姉崎雅和の代理で出席しました。病院では地域医療連携室の事務員をしております。

今回の交渉では各県の男性女性ともスーツやネクタイ、ジャケットの格好で交渉に臨んでいたのですが、自分一人カジュアルな格好で来ていて、あーまずいなと思いつつ、交渉前から交渉後まで一日気まずい思いをしていました。次回初めて参加される方は注意してくださいね。

厚生労働省は初めて入り、どのような職員がでてくるのか期待しながら待っていたら、自分と同年輩かそれより下の方たち(20代、35歳位まで)でしたが、話をきいていると、あくまで個人の感想ですが、頭脳明晰で物腰も柔軟、格好も洒落していて、若い役人、格好いいなーなんて労組らしからぬ？感想を持ってしまいました。

経験のある年輩の方たちはまた違つ印象を若い役人に持ったと思いますが、普段は役人という方々と接する機会が少なく、現場の若い職員にじかに会えたことは新鮮で面白かったです。この人たちもかなりの時間外労働があるようで、お互い過労はほどほどにしたいと祈りました。あたりまえですが、厚労省も労働組合も現状ではまずい、よりよくなりたいの思いは一緒ですので、今後も交渉活動を続け積極的に外部と交流を持ちつづけたいと思います。

静厚労 榎田 雄

### 小さなことでも声を上げ続けること

初めて厚生労働省に立ち入るといふ緊張の中、厚労省交渉つてど



「厚労省の見通しは甘い」と  
詰め寄る徳島・白濱さん

れだけの偉い方が来るのかと思いましたが、私たちと変わらないくらいの年齢の担当者で驚きました。私は看護師であり、看護師の労働条件改善と確保対策については興味がありました。何か故かマニュアル通りの答えしか返ってこないことが残念でした。患者さんや病院経営的に有益である？対看護師も、私たち看護師にとつてだけの制限を受けているか、厚労省側は現場がどれだけの年休取得状況なのか把握できておらず、実態よりも多くの年休が取得できていると思っている状況でした。

山厚労 長岡久美子

# 帰って来た 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。  
第58回は岐阜・山口をお願いします。



岐阜 金田さえ子さん

岐厚労から中央執行委員長の金田さえ子さんを紹介します。金田さんは岐厚労では数少ない女性で中央執行委員長を引き受けてくれた人です。役員選考に悩んでいた前支部執行部を助けて、忙しい仕事を抱えながらも快く引き受けてくれたやさしい人です。いつもニコニコしてとても人当たりが良く、甲高い声とテンポの良い早口な言い回しで和やかな雰囲気を作り出し、患者さんやスタッフの人気を集めています。いざ、本会との団体交渉となるといつもの歯切れよいテンポで要求を練り出しつつ、持ち前の世界観で場は和やかな雰囲気でき進み、紳士的な良い交渉が出来ていると思います。金田さんは組合員の意見を大切に、自らも一生懸命考え知恵を振り絞ってくれます。そんな真剣な姿がみんなをひっぱる原動力であると考えます。

山口県期待の長門病院看護師「長岡久美子さん」を紹介します。長岡さんは、気になることは誰に対しても臆することなく質問し、解決していきまっすぐな人です。その姿勢は、組合活動でも仕事面でも変わりません。また、かわいらしい面もあり、まだ長岡さんの酔った姿を見たことがありません(笑)。山厚労では書記次長、全厚労では執行委員として奮闘してくれています。これからも、まっすぐな姿勢で、組合も仕事も引っ張って行ってくれることでしょう。



山口 長岡久美子さん

## 映画紹介

### 医(いや)す者として



戦後間もなく、協同組合とはいえ戦時に農業会として農民の手から切り離され、直接出資から単協を経た間接出資へと変わり、おらほの(我が)病院が感じにくくなっていったところに佐久総合病院に若月俊一医師が赴任した。

炊事場の隣に家畜小屋があるなど衛生管理もままならず、隙間風の吹く家で満足な暖房器具もない中の過酷な重労働。病院にかかるとは重篤な症状に見舞われた後、

医師が家に来る時は死亡診断書が必要な時。周辺の農山村へ「出張診療」の取り組みから、農村に生きる人々の息遣いを感じた。どんなに体が辛くても病院にいかない、農民の我慢を越えた苦悩を取り払うべく「全村健康管理」や健康に対する啓蒙活動の一環として「演劇」や「病院まつり」を取り組まれる。地域医療を守るという事はただ今ある医療提供体制を「維持」する事だけではなく、潜在的なもので含めたニーズに応えられる体制を「創る」ことだと教えられた。

今、佐久総合病院では「高度専門医療に特化した基幹病院」と「地域密着の医療を担う病院」の2つになる再構築を打ち出した。

当初「切り捨てられる」と住民が不安に思い、地域を二分する問題となる中、病院職員が地域懇談に行きその専門性とみずからも地域住民として寄り添う姿に若月医師の意志が引き継がれている。「農民とともに」のスローガンとその想いが、若月医師が病院職員と共に取り組んだ30数年にわたる16mmと当時を知る人々の証言と共に伝わってくる映画です。

上映スケジュール  
東京・ポレポレ東中野にて  
12月17日〜1月中旬  
(1日2回上映)  
以降全国で劇場・自主上映  
会を計画  
中

(編集部 川崎 優)

## 読者の声

夜勤実態調査の「長時間2交替は人間の生理面からも仕事の質からも問題があります」本日に16時間の夜勤は常にミスなく連続した仕事を求められています。勤務の最後にある食事の援助と内服の介助は事故を起こさないことを祈るばかりの疲労の限界です。働き続けることのできる職場づくりを考えたいです。

(北海道)

川嶋みどり先生の講演は受講できませんでしたでしたが書いてある通りリスクマネジメントから、上からこうしなさい」と命令通り患者の

尊厳が軽視されており、今私たちが行っている看護だと恥さえ感じました。手当ての大事さ、看護の原点はそんなものじゃないと読みながら共感さえ覚えました。こんな素敵な記事をぜひまた読ませて下さい。待っています！

(福島)

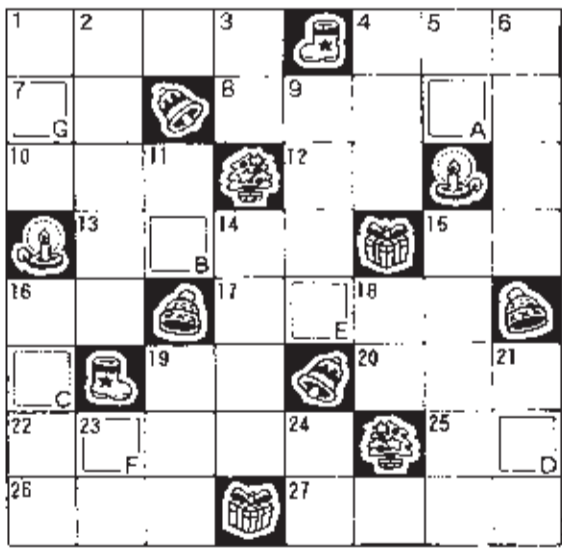
川嶋みどり先生の記念講演記事を読み、日々の業務で忘れかけていた看護のすばらしさを思い出しました。また、我々看護師にとっては川嶋先生の偉大さは周知ですが、他の職種の方にも読まれる全厚労ニュースに記事にしたいです。これからも楽しみにしています(富山)

川嶋先生のお話、興味深く拝見しました。私は看護師ではありませんがハッとさせられることが多い書いてあり、自分も今一度患者さんを人として見ることを再確認してみようと思いました(福島)

川嶋みどり先生の「看護の原点」を読んで今の看護は原点から離れてしまっていると感じました。なるべく観察する時には五感を大切に観察していますが忘れてはいけない言葉ですね。また「見えない看護を見える看護」にはとても大事だと思いました。皆が統一した質の高い看護を提供する上で必要になると感じました(福島)

## ザ・クロスワード

出題 ● モロズミ勝



### 答

- ヨコのカギ
- 1 火みそかの夜に食べる……そば
- 4 古い暦の12月は?
- 7 ……を天に任せる
- 8 必要以上の親切心。……ながら忠告
- 10 辞典。……を引く
- 12 お皿が回る店もある
- 13 連結・融合すること。官界と財界の……
- 15 五重の……
- 16 ゆでて……抜き
- 17 頭に玉の付いた縫い針
- 19 笑い過ぎると外れる
- 20 裸足とも言います
- 22 ……は口に苦し
- 25 臭なもの味なもの
- 26 足の裏の後ろの部分
- 27 お酒を盛って飲む器

- タテのカギ
- 1 カボチャを食べ、ユズ湯に入ります
- 2 伸び縮み。……白在雪の色です
- 3 少しの間。……の別れたカカに似た大形の鳥物の長さ。……を計る色が濃くない……しよ
- 9 油
- 11 地震の……は難しいドイツ語ではヒュッテ
- 14 向はさっておき。差し出たって。……ビール
- 15 星条旗の国
- 16 風内。……ルーム
- 18 けん制球で……
- 21 ……転やり直し
- 23 余った時間。……利用
- 24 ……野球。……もち

当選者10名様に図書カードを差し上げます  
クロスワードパズルの答えと本紙の感想などを添えて下記あて先へお送りください。  
当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。(10月号の答え：メノアイゴデー)